

高松塚古墳壁画の劣化原因に関わる事項の整理について

資料 2

高松塚古墳壁画劣化原因調査検討会（第12回）

年	委員会等	墳丘	保存施設	修理(制落止め)	人の出入り(人数)	生物被害	点検・生物対策	温度変化(奈良市平均値/石室最高値)と年間降水量(奈良市)と石室湿度	備考
昭和47年	3/21 壁画の発見 4 高松塚古墳応急保存対策調査会(～同年11月) 8 高松塚古墳総合学術調査会(～同年10月) 12 高松塚古墳保存対策調査会(～50年4月)	3 発掘調査	4 石室仮保護施設(覆屋)完成	4/17 応急処置 9/30 壁画調査(10/14まで)			ハラホルムアルデヒド(PFA)を布置 PFAを布置	14.5/(16.0) 15 17 19 21(℃) 80(%) 17 40 60 外気温 石室内温度 石室内湿度 年間降水量	10 『壁画古墳高松塚』刊行
昭和48年	10 現地保存方針の決定			10/6 壁画調査(10/18まで)					3 『高松塚古墳壁画』刊行 4 特別史跡に指定 6 壁画模写の準備着手
昭和49年		8 事前発掘調査(～12月)	8 保存施設工事着工	12/4 壁画調査	※				3 壁画模写完成 4 壁画を国宝に指定、出土品を重要文化財に指定
昭和50年				3/27 壁画調査 5/8 事前調査(5/10まで)		3 カビが壁画面上に出現			
昭和51年			3 保存施設竣工 7 機械室の諸装置からの放熱 前室に永柱を立てる 機器の一部改良	9/2 37日間 22日間 2/15	第1次修理				
昭和52年									
昭和53年				9/18 39日間		東壁・西壁・天井 東壁・西壁	ホルエタ(ホルマリンとエタノールの混合液)処置 ホルエタ処置		この頃から、「ハラホルムアルデヒドが劣化しなくなった(恒久保存対策検討会資料より)
昭和54年				21日間					
昭和55年				39日間		カビは微量 東壁・南壁 天井 大きなカビは認められず 西壁 12 「白虎黒色部、筆にて払い」	ホルエタ処置 ホルエタ処置		「先月10%注入した箇所……カビらしい」(作業日誌より)
昭和56年				23日間 2/19 6/29 5日間		1 「黒いカビ汚れと一緒に線描きが不明」「白虎付近の黒い汚れは益々ひどくなっているように思える」	防霉剤TBZを試用 トリクレンにてカビ処置 初めてPFAの噴霧殺菌		「ハラホルムアルデヒドが1年後でもほとんど高散せず、水漬けの状態が残存……」(『国宝高松塚古墳 保存と修理』より)
昭和57年				5日間		天井・西壁	ホルエタ処置		
昭和58年				9日間		東壁・南壁	ホルエタ処置		
昭和59年			10 取合部崩落の写真撮影	12日間		北壁	ホルエタ処置		
昭和60年									
昭和61年				12/17～25 保存修理		北壁	ホルエタ処置		
昭和62年					※				3 『国宝高松塚古墳壁画-保存と修理-』刊行
昭和63年				6/10～10/11 保存修理	※				
平成元年				12/21 保存修理	※	石室内にカビ	ホルエタ処置		
平成2年									
平成3年			日誌に初めて崩落の記載						
平成4年			取合部の崩落度合いを確認						
平成5年					※				
平成6年						石室内にカビ	ホルエタ処置		
平成7年									
平成8年									
平成9年						盗掘口の上面にカビ			
平成10年			「崩落が小康状態」(作業日誌より)						
平成11年									
平成12年			取合部天井の崩落は断続的に続いている(復命書より)						
平成13年			2 取合部崩落止めの工事(～3月)			3月 取合部に大量のカビ発生 9回の点検を行い、7回は石室内・取合部でカビ等	エタノールによる殺菌と除去並びに防霉剤による処置		
平成14年	1 西壁壁画損傷事故					13回の点検を行い、4回は石室内・取合部でカビやムシ等	カビに対する処置を2回行う		
平成15年	3 高松塚古墳壁画緊急保存対策検討会(～18年3月)	5 墳丘部上のモチノキを伐採 9 墳丘部の防水工事(墳丘上段の竹を伐採、防水シート設置)	11 取合部再工事			10回の点検を行う。4月22～24日の点検では石室内・取合部においてムシの死骸			
平成16年	6 高松塚古墳壁画恒久保存対策検討会(～20年3月)	9 発掘調査(～H17年3月) 9 墳丘上に覆屋設置				21回の点検を行い、18回は石室内・取合部においてカビやムシ、ダニ等(カビを中心とした食物連鎖)	カビ・ゲルに対する処置を15回行う		6 『国宝高松塚古墳壁画』発行 6/20～ 壁画の劣化報道
平成17年	8 石室解体方針の決定	6 石室解体決定 9 墳丘上に新覆屋設置 9 墳丘部の冷却を開始				32回の点検を行い、30回は石室内・取合部においてカビやムシ、ダニ等	カビ・ゲルに対する処置を31回行う		
平成18年	4 事故調査委員会(～同年6月)					1月～9月までに20回の点検を行い、19回は石室内・取合部においてカビやムシ、ダニ等	カビ・ゲルに対する処置を18回行う		
平成19年		1 内部断熱覆屋設置 4 石室解体(～8月)							
平成20年	6 古墳壁画保存活用検討会(～現在まで) 7 高松塚古墳壁画劣化原因調査検討会(～現在まで)		11 保存施設撤去(～21年3月)						1 公開シンポジウム開催

※ 人の出入りがあったと思われるが、記録が残っていないため不明

外気温: 奈良市気象台における年平均気温
石室内温度: 石室内における最高月平均気温
降水量: 奈良市気象台における年間降水量